

①木島櫻谷 筆 マクリ作品 6枚

(No. 25-08・10・13・21、A-01・02)

I. 修復前後の作品概要

1. 作品概要

作品名	: 「木島櫻谷 筆 マクリ作品」
登録番号等	: No. 25-08 「春山行路図」 No. 25-10 「瀑布図」 No. 25-13 「溪谷行旅図」 No. 25-21 「春山図」 No. A-01 「富嶽図」 No. A-02 「緑山木樵図」
員数	: 6 枚
種別	: 絵画
作者名	: 木島櫻谷
時代	: 明治時代～大正期
概要	: 木島櫻谷絵画資料の内、紙や絹帛に描かれた未装丁の作品群。収納箱等は無かった。本事業では、描かれた内容や損傷状態から 6 点を選定し、修復後は掛幅装に装丁し、収納箱として桐印籠箱を新調した。

(1) 本紙

i. 絹本

登録番号	: No. 25-08・10、A-01・02
基底材	: 絹帛
本紙料絹の特質	: 平織り 経 90 本(3.03cm の間) 緯 60 越(3.03cm の間)
枚数	: 4 枚(1 面 1 枚)
画材	: 顔料・墨、膠
加工・装飾	: 裏彩色等は無かった
特徴	: それぞれ平織で密な 1 枚の絹帛。修復前は、裏打ち等は無く本紙料絹のみの状態。左右両「端(みみ)」に針孔が見られた。修復後は、裏打ちを施し、掛幅装に仕立てた。

No. 25-08 「春山行路図」

寸法	修復前: 丈 137.7cm 幅 44.5cm
	修復後: 丈 131.8cm 幅 42.4cm

左: Fig. 5 修復前 本紙全図

右: Fig. 6 修復後 本紙全図



No. 25-10 「瀑布図」

寸法 修復前：丈 134.8cm 幅 45.8cm
修復後：丈 127.1cm 幅 42.7cm

左：Fig. 7 修復前 本紙全図
右：Fig. 8 修復後 本紙全図



No. A-01 「富嶽図」

寸法 修復前：丈 134.2cm 幅 39.8cm
修復後：丈 127.4cm 幅 36.4cm

左：Fig. 9 修復前 本紙全図
右：Fig. 10 修復後 本紙全図



No. A-02 「緑山木樵図」

寸法 修復前：丈 140.2cm 幅 30.9cm
修復後：丈 134.2cm 幅 27.3cm

左：Fig. 11 修復前 本紙全図
右：Fig. 12 修復後 本紙全図



ii. 紙本

登録番号	: No. 25-13・21
基底材	: 紙
枚数	: 2 枚(1 面 1 枚)
画材	: 顔料・墨、膠 (No. 25-13 は墨、膠のみ)
加工・装飾	: なし
特徴	: それぞれ繊維の細かい 1 枚の料紙。修復前は本紙料紙のみの状態であった。 修復後は、裏打ちを施し、掛幅装に仕立てた。

No. 25-13 「溪谷行旅図」

寸法	修復前：丈	135.1cm	幅	32.6cm
	修復後：丈	136.8cm	幅	32.1cm



左：Fig. 13 修復前 本紙全図
右：Fig. 14 修復後 本紙全図

No. 25-21 「春山図」

寸法	修復前：丈	31.8cm	幅	63.9cm
	修復後：丈	31.7cm	幅	63.5cm



Fig. 15 修復前 本紙全図



Fig. 16 修復後 本紙全図

(2) 装丁 (6 枚同じ)

修復前

装丁なし

修復後

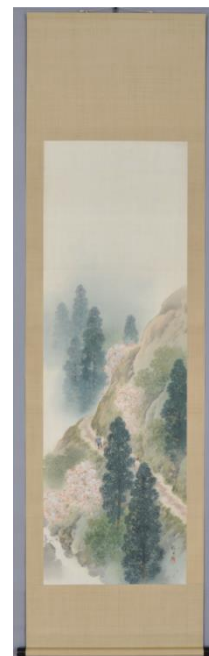
装丁の特徴 : 表装裂・軸等すべての装丁材料を新調した。表装形式は作品に合わせ、それぞれ「丸表具」「筋割二段表具」に仕立てた。

No. 25-08 「春山行路図」

装丁形式 : 掛幅装
寸法 : 丈 191.8cm 幅 53.0cm
表装形式 : 丸表具
表装裂
総縁 : 茶地紬糸入り裂 (新調)
裏打ち紙 : 3 層
肌裏紙 : 薄美濃紙 (新調)
増裏紙 : 美栖紙 (新調)
総裏紙 : 宇陀紙 (新調)
軸 : 黒漆艶消塗頭切軸 (新調)

左 : Fig. 17 修復前 作品全図

右 : Fig. 18 修復後 作品全図

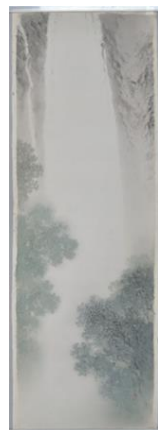


No. 25-10 「瀑布図」

装丁形式 : 掛幅装
寸法 : 丈 187.8cm 幅 52.0cm
表装形式 : 丸表具
表装裂
総縁 : 白茶地魚子 (新調)
裏打ち紙 : 3 層
肌裏紙 : 薄美濃紙 (新調)
増裏紙 : 美栖紙 (新調)
総裏紙 : 宇陀紙 (新調)
軸 : 黒檀頭切軸 (新調)

左 : Fig. 19 修復前 作品全図

右 : Fig. 20 修復後 作品全図



No. 25-13 「溪谷行旅図」

装丁形式 : 掛幅装
寸法 : 丈 196.0cm 幅 41.1cm
表装形式 : 丸表具
表装裂
総縁 : 薄鼠地小菱文紹(新調)
裏打ち紙 : 3 層
肌裏紙 : 薄美濃紙(新調)
増裏紙 : 美栖紙(新調)
総裏紙 : 宇陀紙(新調)
軸 : 紫檀頭切軸(新調)

左 : Fig. 21 修復前 作品全図

右 : Fig. 22 修復後 作品全図



No. 25-21 「春山図」

装丁形式 : 掛幅装
寸法 : 丈 93.3cm 幅 68.5cm
表装形式 : 丸表具
表装裂
総縁 : 薄鼠地菱文紹(新調)
裏打ち紙 : 3 層
肌裏紙 : 薄美濃紙(新調)
増裏紙 : 美栖紙(新調)
総裏紙 : 宇陀紙(新調)
軸 : 茶漆刷毛目塗頭切軸(新調)



左 : Fig. 23 修復前 作品全図

右 : Fig. 24 修復後 作品全図



A No. -01 「富嶽図」

装丁形式 : 掛幅装
寸法 : 丈 208.0cm 幅 47.5cm
表装形式 : 唐表具(筋割二段表具)
表装裂
総縁 : 白地市松文緞子(新調)
風帯・筋 : 白茶地吉祥文銀欄(新調)
裏打ち紙 : 3 層
肌裏紙 : 薄美濃紙(新調)
増裏紙 : 美栖紙(新調)
総裏紙 : 宇陀紙(新調)
軸 : 象牙頭切軸(新調)



No. A-02 「緑山木樵図」

装丁形式 : 掛幅装
寸法 : 丈 191.5cm 幅 35.1cm
表装形式 : 丸表具
表装裂
総縁 : 白茶地裂(新調)
裏打ち紙 : 3 層
肌裏紙 : 薄美濃紙(新調)
増裏紙 : 美栖紙(新調)
総裏紙 : 宇陀紙(新調)
軸 : 紫檀頭切軸(新調)

左 : Fig. 27 修復前 作品全図

右 : Fig. 28 修復後 作品全図



(3) 銘文・ラベル・付属物等(6 枚同じ)

なし

(4) 収納環境(6 枚同じ)

①修復前

収納箱 : なし

②修復後

収納箱 : 桐印籠箱(新調)



Fig. 29 修復後 桐印籠箱

2. 修復前の損傷状況と修復後の様子

(1) 本紙(6 枚同じ)

①物理的損傷

i. 本紙料紙に破れ・欠失が見られた(紙本作品のみ)

No. 25-13 「溪谷行旅図」・No. 25-21 「春山図」

[修復前]

本紙料紙の四辺に細かな破れ・欠失が見られた。

Fig. 30 修復前 25-13 「溪谷行旅図」
本紙右下部



[修復後]

本紙料紙に適する補修紙を選定し、欠失箇所に繕った。

Fig. 31 修復後 25-13 「溪谷行旅図」
本紙右下部



ii. 本紙料絹及び料紙に折れ・皺が見られた

[修復前]

本紙料絹及び料紙全体に大小の折れが見られた。

[修復後]

本紙料絹及び料紙を伸ばし、新たに肌裏を打った事で、折れ・皺を平滑にした。さらに、折れ・皺の裏面から折れ伏せ紙を施し、今後の折れ・皺の要因を軽減させた。



Fig. 32 修復前 本紙全図 斜光線写真

左から No. 25-8 「春山行路図」・25-10 「瀑布図」・25-13 「溪谷行旅図」・25-21 「春山図」、
A-01 「富嶽図」・A-02 「緑山木樵図」



Fig. 33 修復後 本紙全図 斜光線写真

左から No. 25-8 「春山行路図」・25-10 「瀑布図」・25-13 「溪谷行旅図」・25-21 「春山図」、
A-01 「富嶽図」・A-02 「緑山木樵図」

②視覚的損傷

i. 本紙料絹及び料紙全体に汚れ・染みが確認できた

[修復前]

本紙料絹及び料紙全体に茶褐色の染みや汚れが見られた。

[修復中]

クリーニング作業により染み・汚れが緩和された。

③彩色層

i. 絵具の欠失・剥離が見られた

No. 25-08 「春山行路図」・No. 25-10 「瀑布図」・No. A-01 「富嶽図」・No. A-02 「緑山木樵図」

[修復後]

図様部分の絵具に欠失・剥離・粉状化が生じていた。

Fig. 34 修復前 A-01 「富嶽図」

本紙中央部



[修復後]

図様部分の絵具に膠水溶液を塗布し、絵具の剥離・欠失・粉状化が進行しないように剥落止めを行った。

Fig. 35 修復後 A-01 「富嶽図」

本紙中央部



(2) その他

①本紙料絹の両「端(みみ)」に、「針孔」が見られた。(V. 知見その他 参照)

No. 25-08 「春山行路図」・No. 25-10 「瀑布図」・No. 25-13 「溪谷行旅図」・No. 25-21 「春山図」

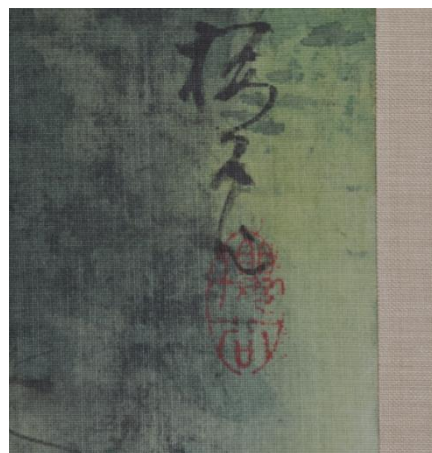
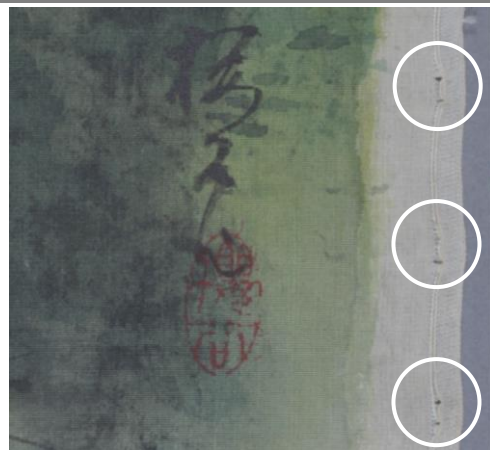
[修復前]

本紙料絹の両「端」に「針孔」が見られた。

「端」は制作当初の雰囲気を残すものであるが、本来装丁時に切除されることから、視覚的な違和感が生じていた。

[修復後]

増裏打ち後、本紙の両「端」を切除し、本紙と表装裂を付け廻した。



上 : Fig. 36 修復前 25-08 「春山行路図」 端部分

下 : Fig. 37 修復後 25-08 「春山行路図」 端部分

②裏打ちが無く本紙だけの状態で保存されていた

[修復前]

絹本・紙本作品は共に裏打ちが無くマクリの状態で収納保存されていた。そのため経年劣化が進行していたが支えは無く、本紙及び表面の彩色層が不安定な状態であり、損傷が拡大していた。特に紙本作品では損傷が顕著であった。

[修復後]

絹本・紙本作品共に新たに裏打ちを施し、本紙を安定させた。更に掛幅装に装丁したことで、掛けて展示できるようにした。

③細く巻かれて収納されていた

[修復前]

収納時に細く巻かれた事が要因となり、経年劣化からしなやかさが低下した本紙料絹及び料紙全体に、強い巻き癖が生じていた。

[修復後]

本紙料絹及び料紙に生じた皺を伸ばし、新たに裏打ちを施す事で、本紙の巻き癖を解消した。

4. 総合評価

(1) 修復前の作品の状態及び問題点

本作品 6 枚は、明治～大正期に木島櫻谷によって描かれた「木島櫻谷絵画資料」のうち、絵画資料群の一部である。

装丁前の作品は、いずれも絹帛や紙に描かれ、裏打ち等が施されていなかった未装丁の状態であった。これらの作品は、基底材の違いや制作年代により損傷状態や経年劣化に違いが見られた。絹本作品については、破れ・欠失等の損傷は無く比較的良好な状態であった。一方、紙本作品については、本紙四辺に破れ・欠失が見られ、本紙全体に折れ・皺が確認出来損傷が著しかった。全ての作品に巻芯はなく、細く巻かれて収納されていた事により、強い巻き癖が生じていた。また、彩色については、展色材の劣化により絹本作品の一部に絵具の剥落が生じていた。

これらの状態を改善・緩和し、今後安定した状態で展示できるようにするために修復処置や適切な装丁を施すことが必要であった。以上の事から、本作品の修復処置及び装丁を有限会社墨仙堂で行うこととなった。

(2) 修復後の作品の状態

今回の修復処置及び表装作業では、絵具の剥落止めを行い、本紙料絹及び料紙のクリーニングによって、汚れ・染みなどの視覚的な違和感を可能な限り緩和した。また、破れ・欠失等の損傷が見られる紙本作品については、本紙料紙に適する補修紙を選定し、欠失箇所に繕った。その後、絹本及び紙本作品に新たに裏打ちを行い、折れ・皺箇所には折れ伏せ紙を施した。最後に必要な装丁材料を新調し、作品を掛幅装に装丁した。

修復処置及び表装作業の結果、作品に生じた損傷要因を軽減させ、合計 3 層の裏打ちを施す事で作品の保存・展示に必要な強度を持たせた。また、紙本作品の補修箇所に補彩を施し、画面全体の色調を整えた事により、視覚的な違和感を緩和した。装丁後の作品を新調した桐印籠箱に収納した事で、安定した保存環境を作品に与えることが出来た。

II. 修復方針

1. 基本方針(6 枚同じ)

(1) 実施する作業及び方針の決定・変更等は、所有者・関係者との協議・監督の下進める

(2) 掛幅装に装丁する

修復前の作品は未装丁の状態であり、安定的に保存するには装丁を行う必要があった。そこで、今回の修復作業では、本紙の修復処置及び新たな裏打ちを行い、掛幅装に装丁するこ

とを基本方針とした。

- (3) 修復作業は有限会社 墨仙堂 工房内で行う

作品の運送に関しては、弊社技術者が作品を梱包した後、弊社車両で運搬した。

- (4) 修復前後、更に作業中の記録・撮影を行う

- (5) 施工期間

令和4年4月28日～令和4年3月20日

2. 本紙

絹本作品 (4 枚同じ)

No. 25-08 「春山行路図」・No. 25-10 「瀑布図」・No. A-01 「富嶽図」・No. A-02 「緑山木樵図」

- (1) 剥落止めを施す

絵具層へ新たに膠水溶液を浸透させ、絵具層の強化・再接着を図った。絵具層の割れ・浮きなどの箇所は膠水溶液を筆等で塗布し、粉状に剥落している箇所に関しては、蒸気噴霧器を使用し膠水溶液を噴霧した。使用した膠の種類・濃度は絵具の種類や剥落の度合い、作業の進行状況に合わせ使い分けた。

- (2) 本紙のクリーニングを施す

クリーニングには濾過水と吸水紙を使用した。加湿した本紙を吸水紙の上に置き、本紙中の水分に溶け出した汚れ等を毛細管現象によって吸水紙に移し、汚れ・染みを除去した。尚、クリーニングには本紙料絹の劣化損傷要因にもなる薬品の使用は控えた。

- (3) 新たに肌裏打ちを行う

本紙料絹に肌裏を打った。肌裏紙には楮紙(薄美濃紙)を選定した。

肌裏紙 : 薄美濃紙(美濃竹紙工房 製)

- (4) 折れ伏せを入れる

本紙の折れが生じている箇所及び今後折れが生じると思われる箇所に折れ伏せ紙を入れた。折れ伏せ紙には楮紙(悠久紙)を使用した。

折れ伏せ紙 : 悠久紙(東中江和紙加工生産組合 製)

紙本作品 (2 枚同じ)

No. 25-13 「溪谷行旅図」・No. 25-21 「春山図」

- (1) 剥落止めを施す

絵具層へ新たに膠水溶液を浸透させ、絵具層の強化・再接着を図った。絵具層の割れ・浮きなどの箇所は膠水溶液を筆等で塗布し、粉状に剥落している箇所に関しては、蒸気噴霧器を使用し膠水溶液を噴霧した。使用した膠の種類・濃度は絵具の種類や剥落の度合い、作業の進行状況に合わせ使い分けた。

- (2) 本紙のクリーニングを施す

クリーニングには濾過水と吸水紙を使用した。加湿した本紙を吸水紙の上に置き、本紙中の水分に溶け出した汚れ等を毛細管現象によって吸水紙に移し、汚れ・染みを除去した。尚、クリーニングには本紙料紙の劣化損傷要因にもなる薬品の使用は控えた。

- (3) 新たに肌裏打ちを行う

本紙料紙に新たに肌裏を打った。肌裏紙には楮紙(薄美濃紙)を選定した。

肌裏紙 : 薄美濃紙(美濃竹紙工房 製)

- (4) 折れ伏せを入れる

本紙の折れが生じている箇所及び今後折れが生じると思われる箇所に折れ伏せ紙を入れた。折れ伏せ紙には楮紙(悠久紙)を使用した。

折れ伏せ紙 : 悠久紙(東中江和紙加工生産組合 製)

- (5) 本紙料紙の欠失箇所に補修紙を施す

本紙料紙の欠失箇所に新たに補修紙を施した。また、本紙料紙を保護する為、四辺に足し

紙を施した。補修紙・足し紙は本紙料紙と似寄りの紙を選定した。

補修紙 : 竹紙

(6) 補彩を施す

補彩は新たに繕いを施した補修紙の上にのみ行った。補彩に使用した画材は、顔料を膠で溶いたもの或いは、棒絵具を使用した。

3. 装丁(6 枚同じ)

(1) 掛幅装に装丁する

所有者・関係者と協議し、未装丁であった作品を修復後は新たに掛幅装に装丁した。

(2) 表装形式について

所有者・関係者と協議し、それぞれの本紙に適する表装形式・寸法を選定し、仕立てた。

(3) 新調装丁材料

①裏打ち紙について

新たに施す裏打ち紙は、伝統的に使用されている 3 種 3 層の裏打ちとし、作品に適度なしなやかさと強度を持たせるようにした。

裏打ち : 3 層

肌裏紙 : 楮紙(薄美濃紙 美濃竹紙工房 製)

増裏紙 : 美栖紙(世界一 上窪和紙 製)

総裏紙 : 宇陀紙(福虎 福西和紙本舗 製)

②表装裂について

新調する表装裂については、所有者・関係者と協議し、作品毎に相応しい良質な表装裂を選定し、それぞれに配した。

③軸・軸木・八双・掛け紐を新調する

軸 : 木・漆塗・象牙軸(山崎商店)

軸木・八双 : 杉材軸木・八双(速水商店)

掛け紐 : 正絹三色組紐(速水商店)

4. その他(6 枚同じ)

(1) 各作業の接着剤として小麦粉澱粉糊(新糊・古糊)を使用する

各作業の接着には、伝統的に使用されている小麦粉澱粉糊(新糊)と新糊を複数年瓶で寝かせた古糊を使用した。小麦粉澱粉糊は、可逆性も高く、将来の再修理の際にも裏打ち紙等の除去を容易にすることが出来る。

肌裏打ち・付け廻し・仕上げ : 新糊

増裏打ち・総裏打ち : 古糊

小麦粉澱粉(中村製糊株式会社)

5. 収納・展示(6 枚同じ)

(1) 桐印籠箱・包紙・箱帙を新たに製作する

収納保存にあたっては、6 枚の作品それぞれを掛幅装に装丁後、新調した包紙に包み、個別の桐印籠箱を新調し、収納・保存した。

6. 調査(6 枚同じ)

(1) 工房内調査

①目視による調査

修理中の作品の構造・損傷調査を記録した。

②光学調査(V. 知見及びその他 3・4・5、VI. 修復写真 参照)

修復中・作業工程中の記録写真撮影を行った。修理作業中の裏面全図・部分、透過光撮影等も可能な限り行った。撮影はデジタルカメラを使用した。

7. 使用諸資材及びその他(6 枚同じ)

(1) 水

〈濾過水〉 濾過水器 オルガノ株式会社 PF カーボンカートリッジ、マイクロポアーシリーズ N タイプ

〈イオン交換水〉 濾過水器 オルガノ株式会社 カートリッジ純水機 G-10C 形

濾過水・イオン交換水は、水道水（京都市水道局）を元水としフィルターで濾過した物を使用した。イオン交換水で作製した溶液は可能な限り純粋な溶液であり、反応も調節し易いため使用した。また通常の作業では水道水に含まれる塩素・鉄等の不純物を除去する事により、作品に悪影響を残さない濾過水を使用した。

(2) 接着剤

①小麦粉澱粉－中村製糊株式会社（京都市下京区富小路五条下がる）

〈新糊〉

新糊はグルテンを除去した小麦粉の澱粉質を原材料に使用し作成する。水 3：小麦粉澱粉 1 の割合で約 30 分煮溶かした物を元糊とし、各作業に応じた希釈率で使用した。

〈古糊〉

古糊は伝統的に増裏・中裏・総裏紙の接着に用いられてきた。新糊を複数年寝かせることにより、発生する黴や微生物によって醗酵が進み、古糊が出来上がる。古糊は接着力が弱い。それを補う工程として、「打ち刷毛」という特殊な表具用刷毛を使用し、裏打ち紙と料紙の微弱な接着力を補う作業を必要とする。

②膠〈和膠〉－天野山文化遺産研究所（大阪府河内長野市天野町）

原材料は牛皮。膠製造時に薬品を使用せず製作した無添加膠。絵具止めに使用。

(3) 紙

①薄美濃紙－美濃竹紙工房（岐阜県美濃市蔵生）

原材料はクワ科の楮。中でも国内産那須楮白皮を使用した手漉き和紙。薄く強靱で長期の保存に耐える。肌裏紙に使用。

②悠久紙－東中江和紙加工生産組合（富山県南砺市東中江）

原材料はクワ科の楮。五箇山産楮を雪で晒し、白皮を使用した手漉き和紙。腰が強く張りがあり長期の保存に耐える。折れ伏せ紙に使用。

③美栖紙〈世界一〉－上窪和紙（奈良県吉野郡吉野町南大野）

原材料はクワ科の楮。紙漉きの際、胡粉（炭酸カルシウム）や白土を添加する表具用手漉き和紙。薄く柔軟性があり、古糊と合わせて使用する。増裏紙に使用。

④宇陀紙〈福虎〉－福西和紙本舗（奈良県吉野郡吉野町大字窪垣内）

原材料はクワ科の楮。紙漉きの際、地元特産の白土（カオリナイト）を添加する表具用手漉き和紙。白色度が高く、美栖紙に比べやや厚いが、風合い・質感共に軟らかさがある。古糊と合わせて使用する。総裏紙に使用。

(4) 表装材料

①軸－山崎商店（京都市右京区西京極南庄境町）

速水商店（京都市中京区富小路三条上る）

②軸木・八双－速水商店（京都市中京区富小路三条上る）

十分乾燥させた杉材を使用した軸木・八双。

③掛け紐〈正絹三色組紐〉－速水商店（京都市中京区富小路三条上る）

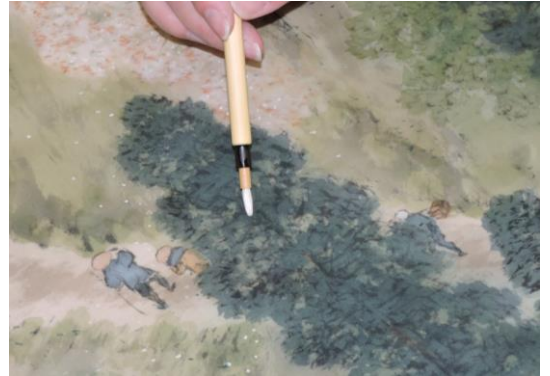
(6) 収納箱

①桐印籠箱－福井工房（京都府京都市北区原谷）

Ⅲ. 修復工程 (6 枚同じ)

1. 修復前に本紙の状態を調査し、写真撮影を行った。
2. 作品に付着する埃を、刷毛等を用いて払った。
3. 膠水溶液を用い、絵具の剥落止めを行った。

Fig. 38 絵具の剥落止め



4. 本紙に噴霧器で濾過水を与え加湿した。その後、吸水紙の上に置き、汚れを裏面より吸出しクリーニングを施した。

Fig. 39 本紙のクリーニング

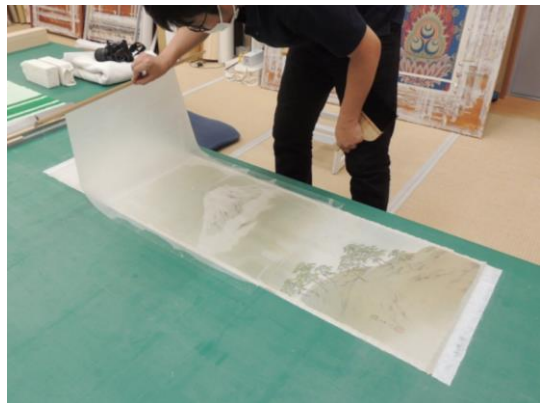


5. 小麦粉澱粉糊(新糊)を用い、楮紙で本紙料絹の肌裏を打った。(絹本作品 4 枚のみ)

No. 25-08 「春山行路図」・No. 25-10 「瀑布図」

No. A-01 「富嶽図」・No. A-02 「緑山木樵図」

Fig. 40 本紙料絹の肌裏打ち



6. 本紙料紙と類似の補修紙を選定し、裏面から欠失箇所に繕った。糊は新糊を使用した。(紙本作品 2 枚のみ)

No. 25-13 「溪谷行旅図」・No. 25-21 「春山図」

Fig. 41 欠失箇所の繕い



7. 新糊を用い、楮紙で本紙料紙の肌裏を打った。
(紙本作品 2 枚のみ)

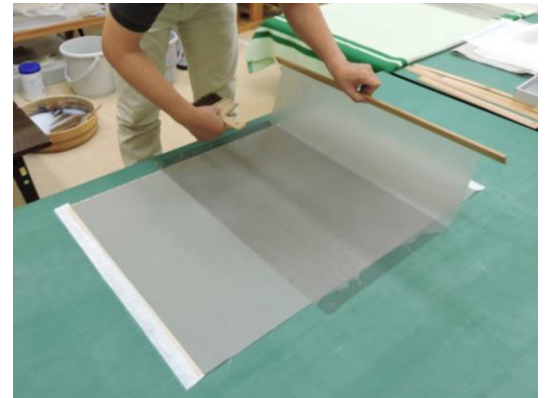
No. 25-13「溪谷行旅図」・No. 25-21「春山図」

Fig. 42 本紙料紙の肌裏打ち



8. 新調した表装裂に楮紙で新たに肌裏を打った。糊は新糊を用いた。

Fig. 43 表装裂の肌裏打ち



9. 本紙・表装裂に美栖紙を使用し増裏を打った。糊は古糊を使用した。裏打ち後、仮張りを施した。

Fig. 44 本紙の増裏打ち



10. 本紙の折れが生じている箇所および今後明らかに生じ
ると思われる箇所に折れ伏せを入れた。折れ伏せ紙は
楮紙を用い、糊は新糊を使用した。折れ伏せ入れ後、再
び仮張りを施した。

Fig. 45 折れ伏せ入れ



11. 本紙と表装裂をそれぞれ「丸表具」「唐表具」に付け廻し
た。
12. 表具両端の端を折り、仕上がり寸法を出した。

Fig. 46 付け廻し



13. 上巻きと宇陀紙で総裏を打った。糊は古糊を用い、裏打ち後仮張りを施した。



Fig. 47 総裏打ち

14. 必要な補修箇所へ補彩を施した。



Fig. 48 補修紙への補彩

15. 八双・軸・掛け紐・桐印籠箱を新調した。



Fig. 49 新調した桐印籠箱

16. 箱帙を製作した。



Fig. 50 新たに製作した箱帙

17. 十分に乾燥させた後、表具に仕上げた。



Fig. 51 仕上げ

18. 完成した表具を新調した包紙に包んだ後、桐印籠箱に収納した。

19. 修復後の記録写真及び報告書を作成した。



Fig. 52 作品を収納箱に納めた様子

IV. 知見及びその他

1. 修復前後の作品構造

(1) 装丁構造

作品は、それぞれ1作品につき1枚の絹帛や紙に図様が描かれている。修復前は、全て裏打ち等が施されていない本紙のみの状態であった。

今回の修復作業では、本紙料絹及び料紙に新たに裏打ちを行い、作品の安定化を図った。更に掛幅装に装丁することで今後良好な状態で展示・保存できるようにした。

本紙料絹及び料紙・表装裂の1層目には「薄美濃紙」を使用し、「肌裏打ち」を行った。2層目には伝統的に使用されている「美栖紙」で本紙・表装裂の「増裏打ち」を行った後、本紙の折れが生じている箇所「折れ伏せ紙」を施した。その後、本紙と表装裂を付け廻し、最背層に「宇陀紙」で「総裏打ち」を行なった。

修復後の作品構造は、裏打ち紙に3種の特性のある手漉き和紙を使用し、計3層の裏打ちを行う事で、長期の保存に耐える十分な強度を持たせる事が出来た。

2. 絹本作品の左右両「端(みみ)」に残された「針孔」について

修復前の絹本作品には、左右両辺に織の際の「端」が残されており、絵絹の織幅が全て使用されていたことが解った。

修復前の調査から、本紙料絹の四辺に糊が付着していた痕跡やそれに伴う変色は見られなかったことから、制作時に糊等で木枠等に貼り込まれた可能性は低い。但し、左右の「端」部分に連続する「針孔」が見られた。これらは、作品の制作時に絵絹に張力を掛け、画面を平滑で安定した状態にするために張り込んだ痕跡と考えられる。

そこで、端に残された針孔の状態から、「伸子張り」の可能性が考えられないだろうか。絹織物の洗張や染色時に「伸子(しんし)」と呼ばれる両端に針が取り付けられた細い竹棒を左右の「端」から「端」に刺し、その張力で平滑にする「伸子張り」の痕跡に似ている。

今後、櫻谷の絹本作品の制作方法の研究が進みその制作方法が明らかになることを望む。



Fig. 53 修復前 25-10「瀑布図」
本紙料絹の端部分に見られた「針孔」

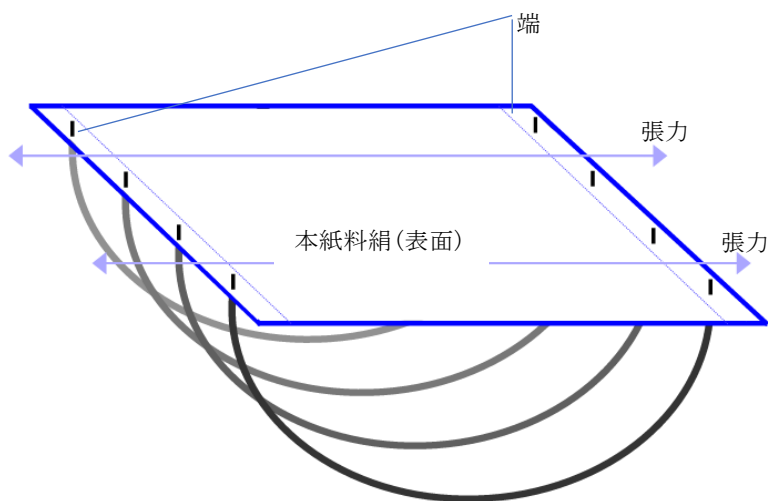


Fig. 54 「伸子張り」イメージ図

弧状にたわめた「伸子」数本を左右端に刺し、その張力で平滑にする。「伸子」は丈に合わせて必要本数用いる。

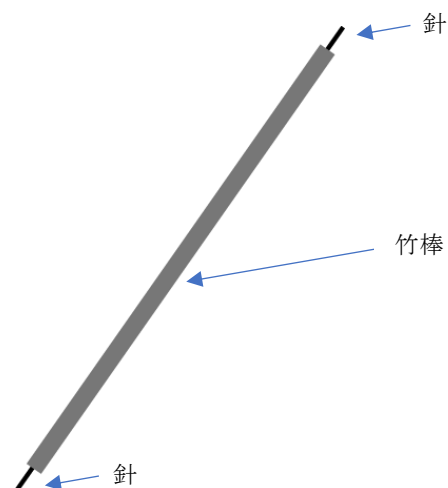


Fig. 55 「伸子」イメージ図
竹棒の両端に針が埋め込まれている

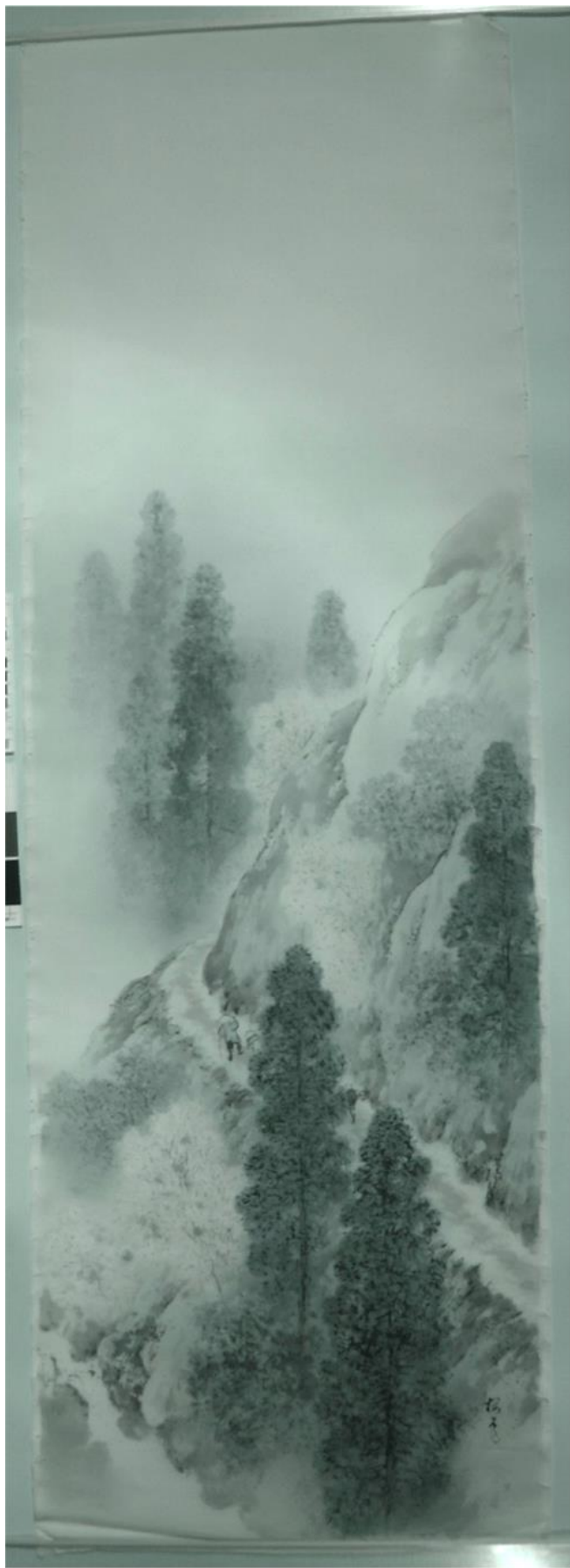


Fig. 56 修復前 25-08 「春山行路図」
本紙料絹全図 赤外線写真



Fig. 57 修復前 25-10 「瀑布図」
本紙料絹全図 赤外線写真



Fig. 58 修復前 25-13「溪谷行旅図」
本紙料紙全図 赤外線写真



Fig. 59 修復前 25-21「春山図」
本紙料紙全図 赤外線写真



Fig. 60 修復前 A-01「富嶽図」
本紙料絹全図 赤外線写真



Fig. 61 修復前 A-02「緑山木樵図」
本紙料絹全図 赤外線写真

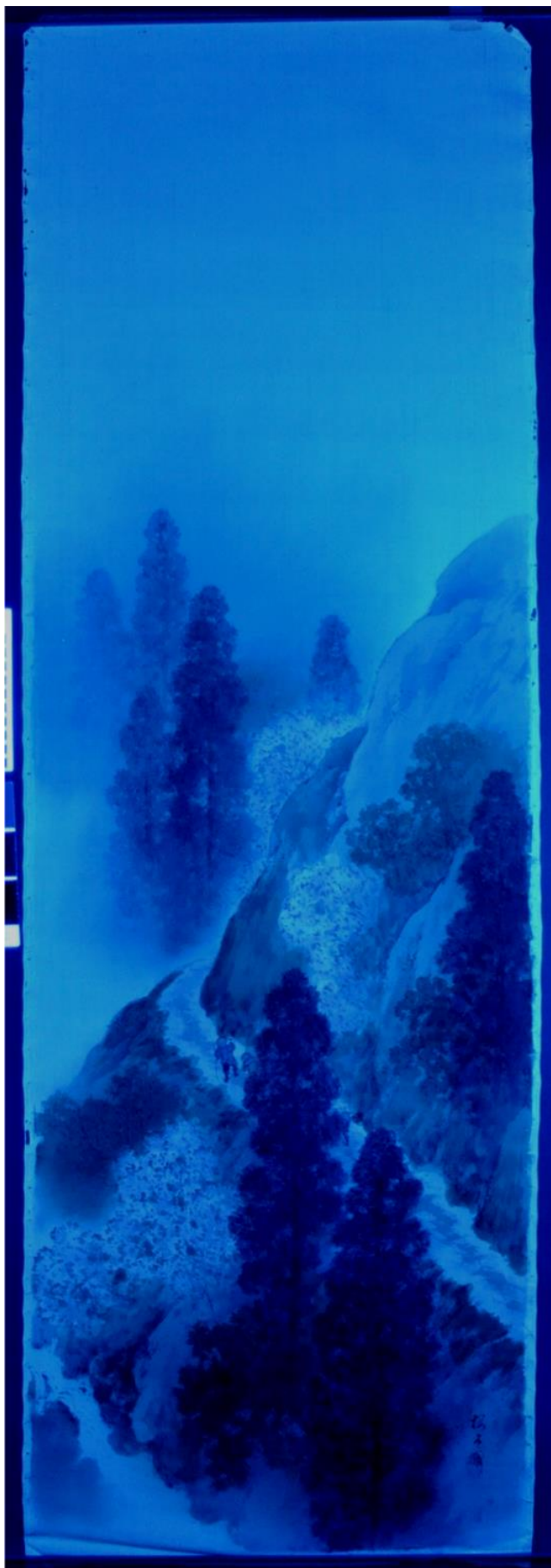


Fig. 62 修復前 25-08「春山行路図」
本紙料絹全図 紫外線蛍光写真

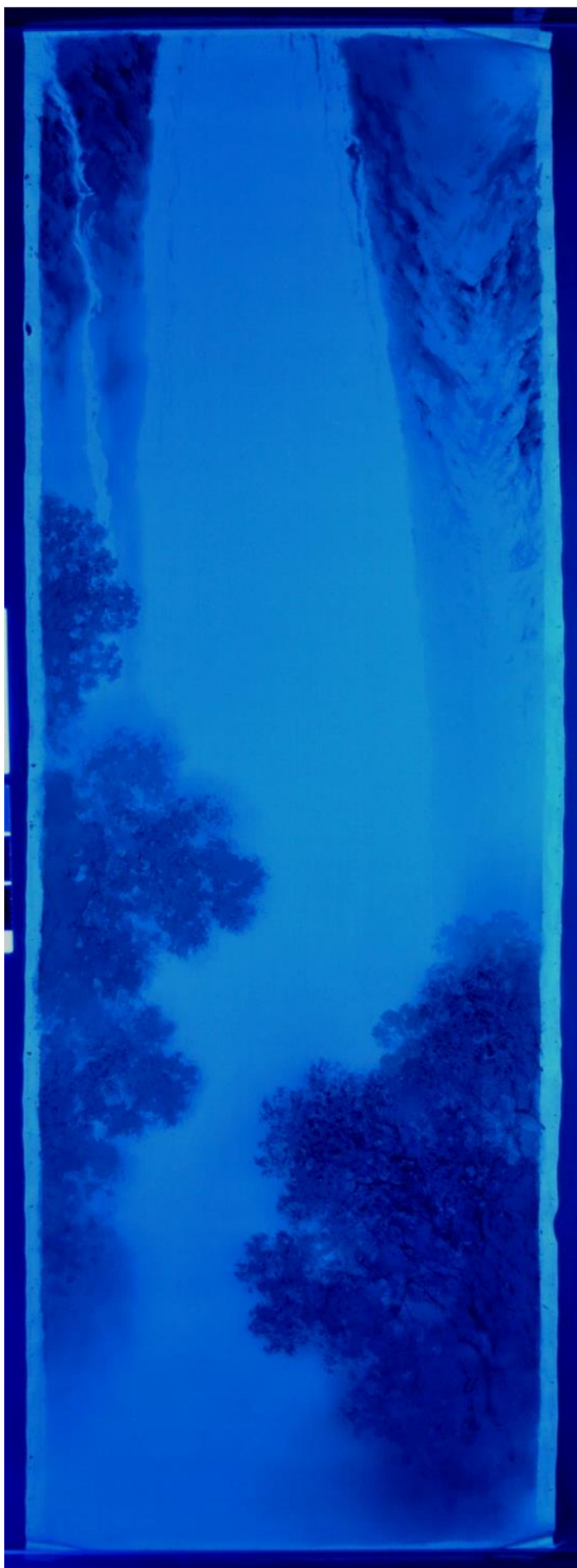


Fig. 63 修復前 25-10「瀑布図」
本紙料絹全図 紫外線蛍光写真



Fig. 64 修復前 25-13「溪谷行旅図」
本紙料紙全図 紫外線蛍光写真



Fig. 65 修復前 25-21「春山図」
本紙料紙全図 紫外線蛍光写真



Fig. 66 修復前 A-01「富嶽図」
本紙料絹全図 紫外線蛍光写真

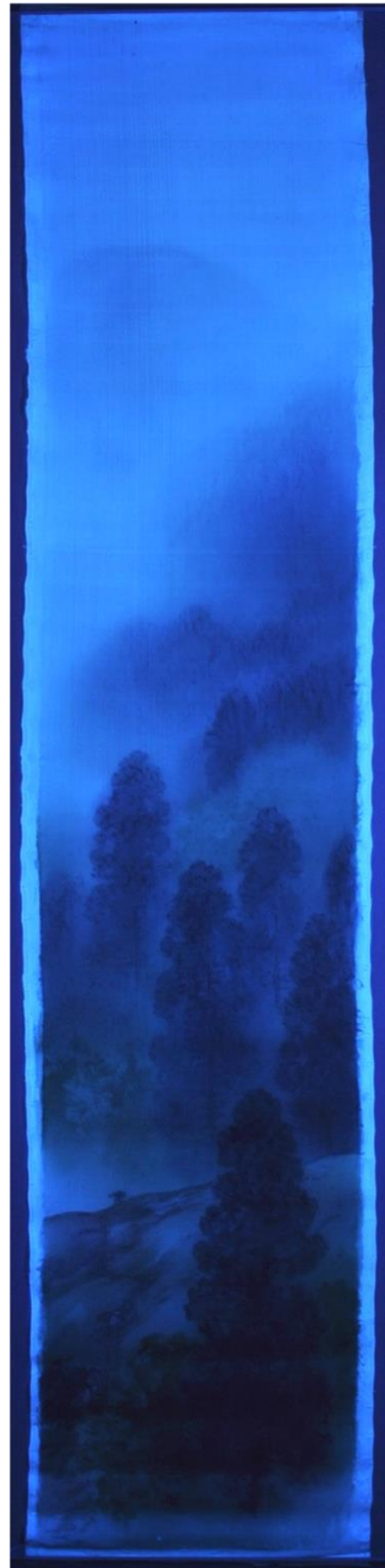


Fig. 67 修復前 A-02「緑山木樵図」
本紙料絹全図 紫外線蛍光写真

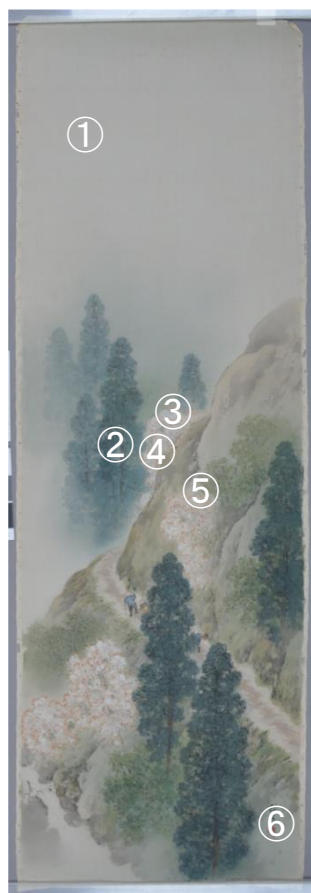


Fig. 68 25-08「春山行路図」
顕微鏡写真位置図

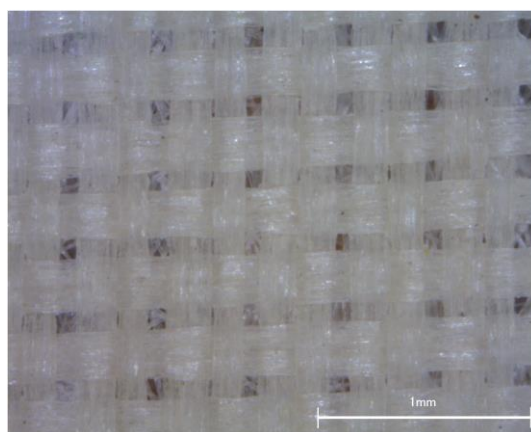


Fig. 69 顕微鏡写真 ①

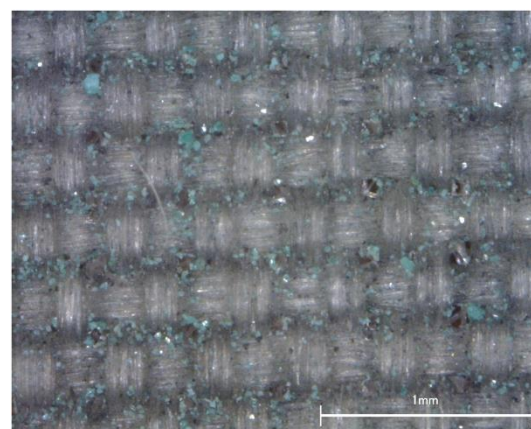


Fig. 70 顕微鏡写真 ②

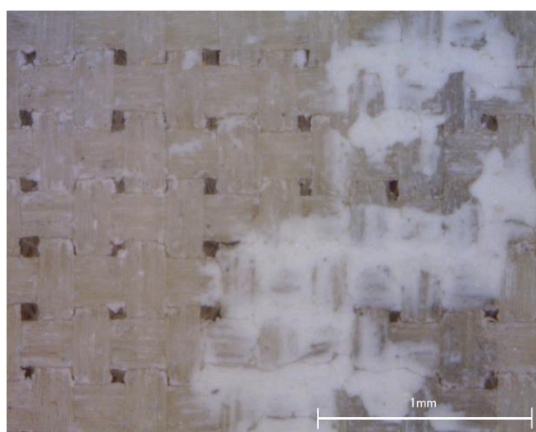


Fig. 71 顕微鏡写真 ③

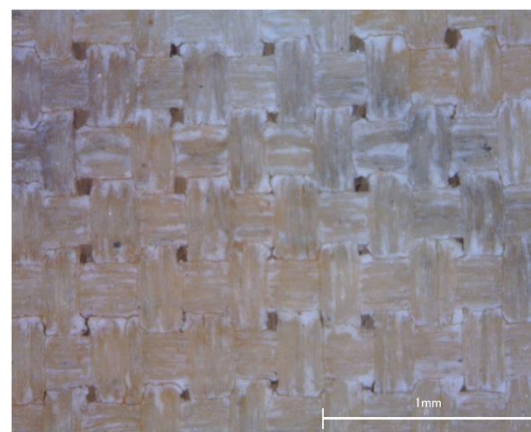


Fig. 72 顕微鏡写真 ④

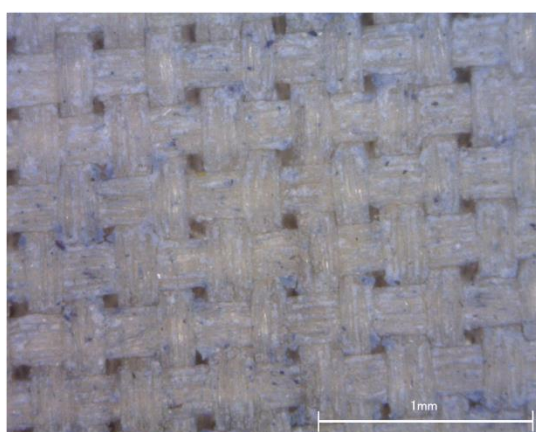


Fig. 73 顕微鏡写真 ⑤

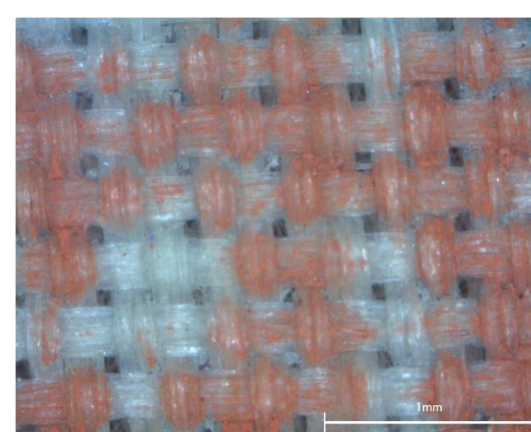


Fig. 74 顕微鏡写真 ⑥



Fig. 75 25-10「瀑布図」
顕微鏡写真位置図

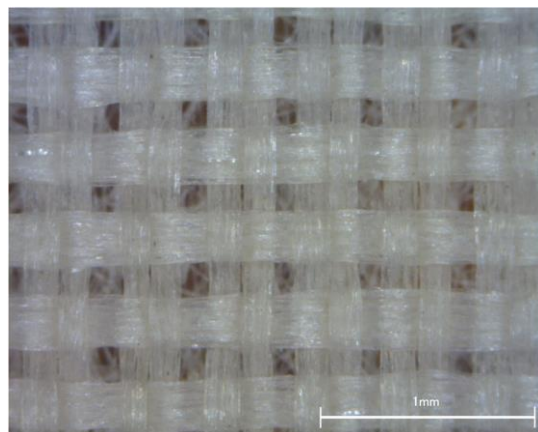


Fig. 76 顕微鏡写真 ①

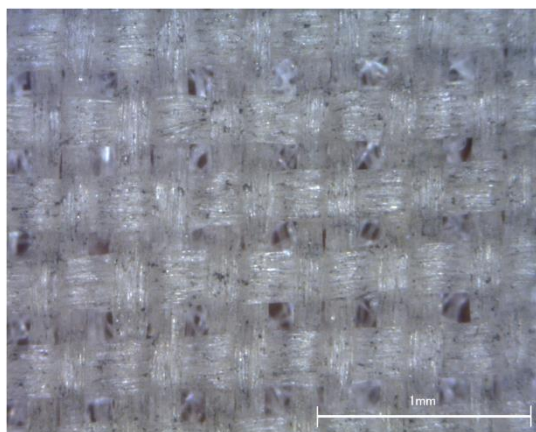


Fig. 77 顕微鏡写真 ②

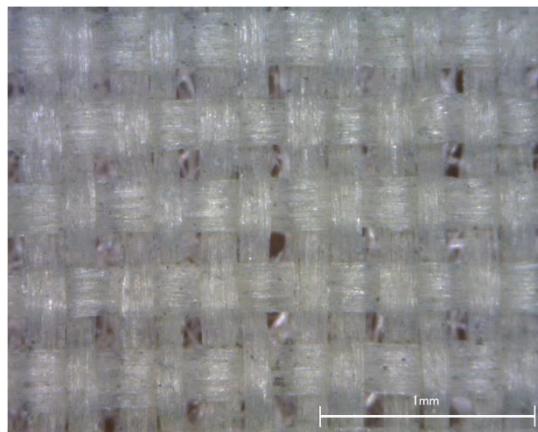


Fig. 78 顕微鏡写真 ③

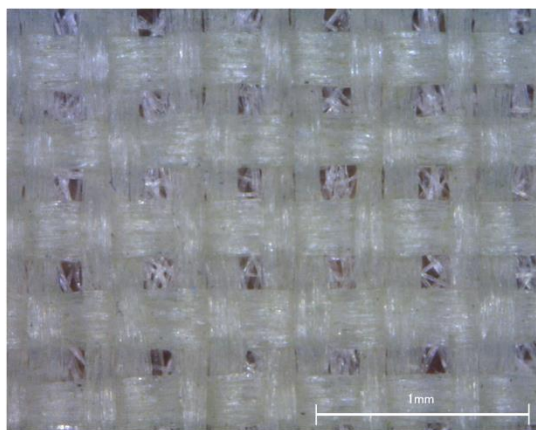


Fig. 79 顕微鏡写真 ④

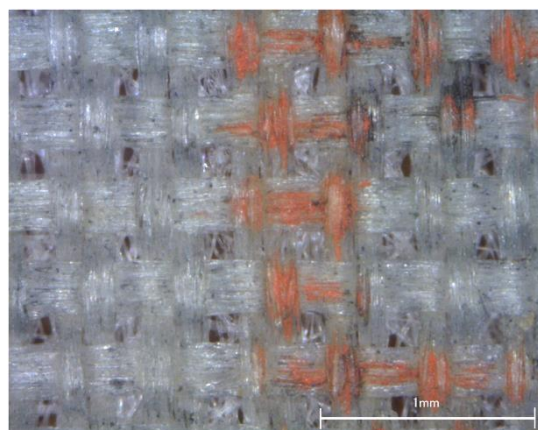


Fig. 80 顕微鏡写真 ⑤

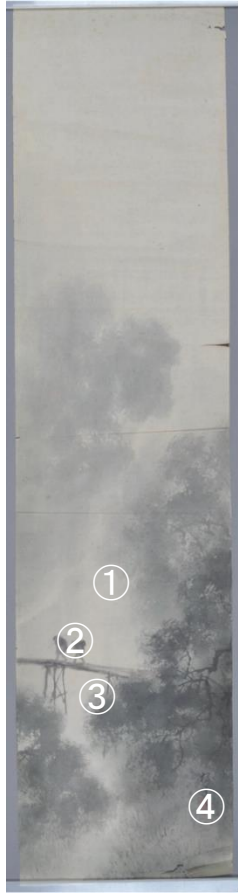


Fig. 81 25-13「溪谷行旅図」
顕微鏡写真位置図

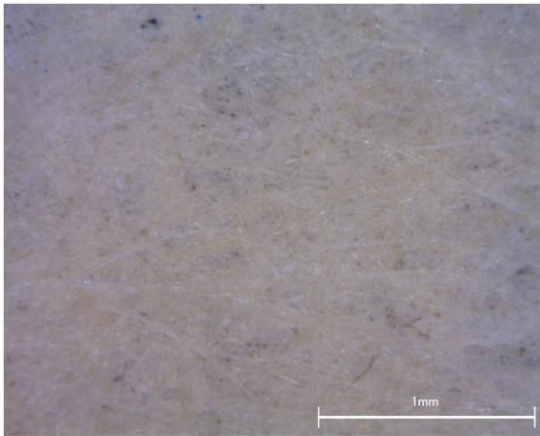


Fig. 82 顕微鏡写真 ①

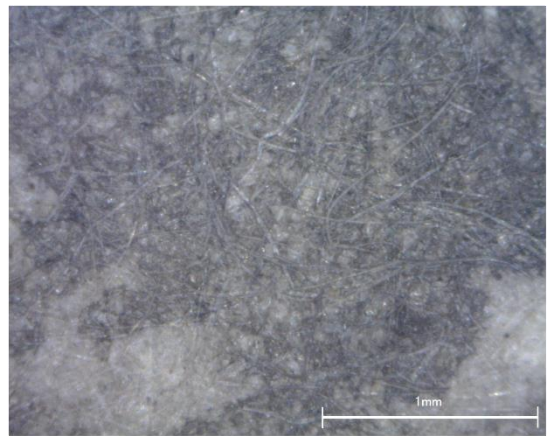


Fig. 83 顕微鏡写真 ②

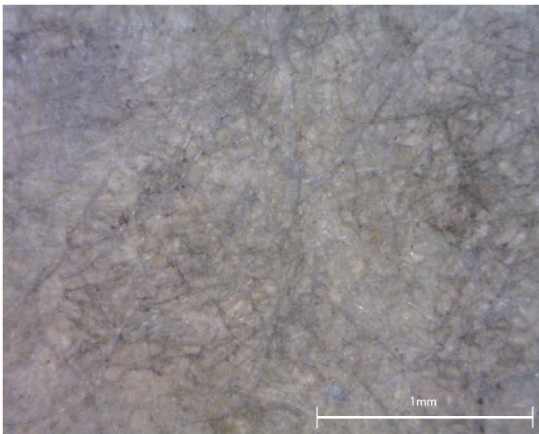


Fig. 84 顕微鏡写真 ③

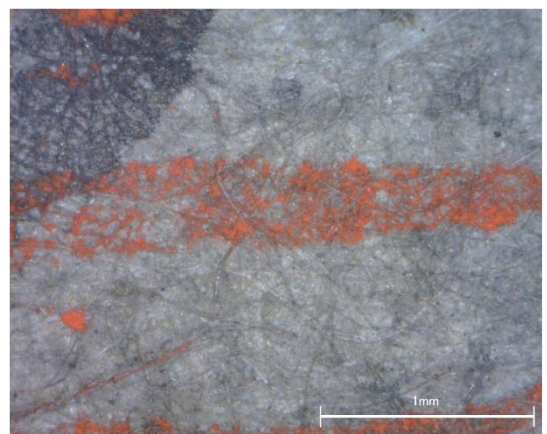


Fig. 85 顕微鏡写真 ④



Fig. 86 25-21 「春山図」 顕微鏡写真位置図

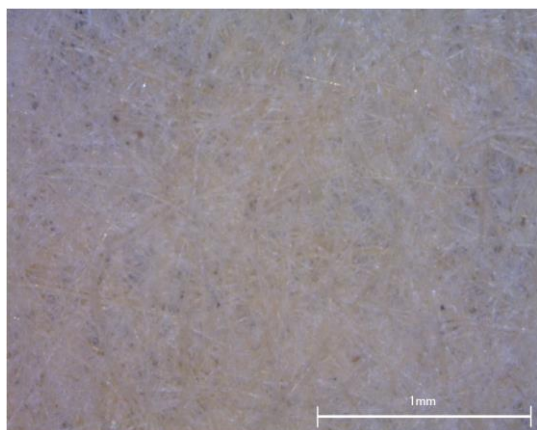


Fig. 87 顕微鏡写真 ①

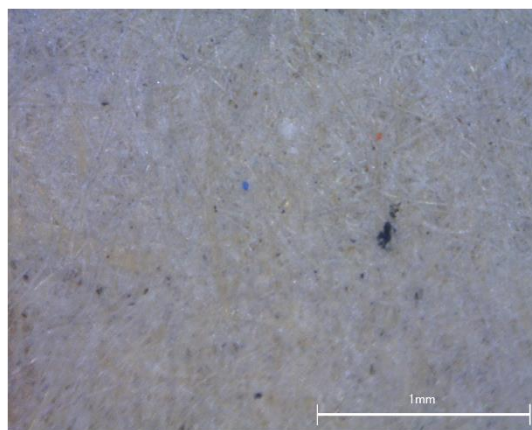


Fig. 88 顕微鏡写真 ②

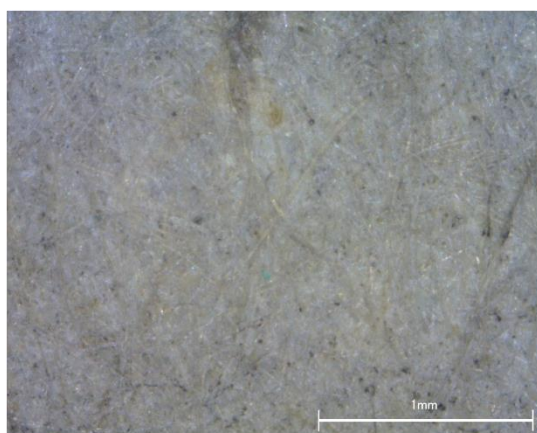


Fig. 89 顕微鏡写真 ③

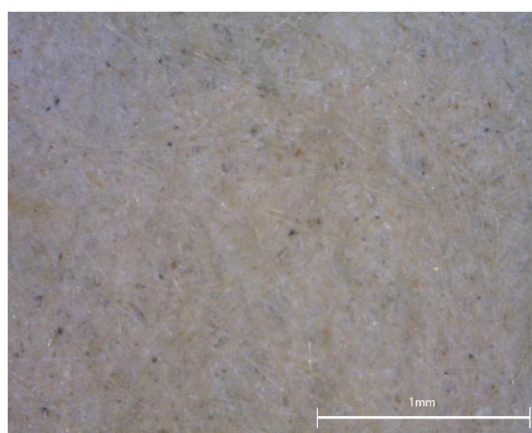


Fig. 90 顕微鏡写真 ④

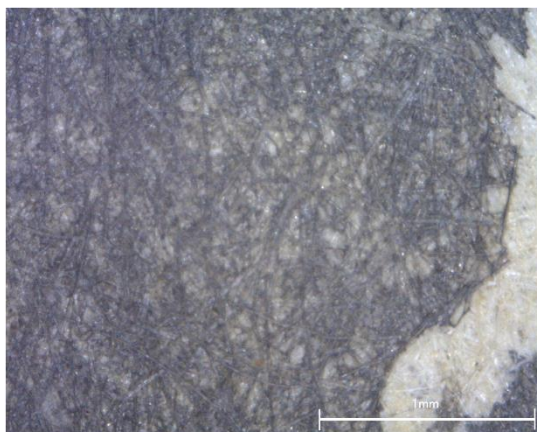


Fig. 91 顕微鏡写真⑤

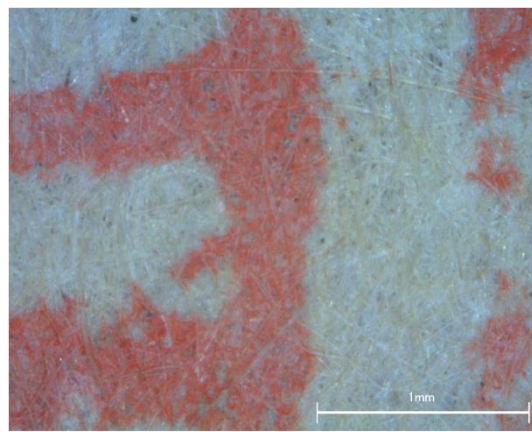


Fig. 92 顕微鏡写真 ⑥



Fig. 93 A-01「富嶽図」
顕微鏡写真位置図

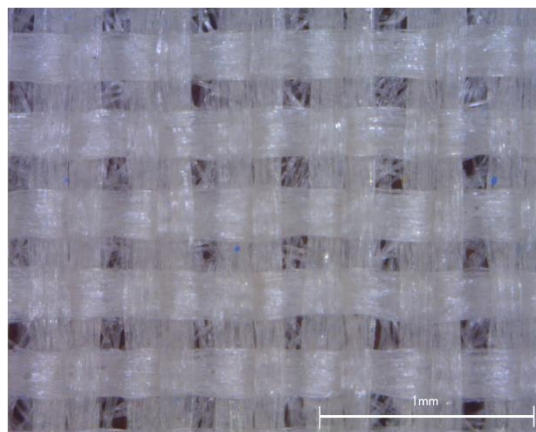


Fig. 94 顕微鏡写真 ①

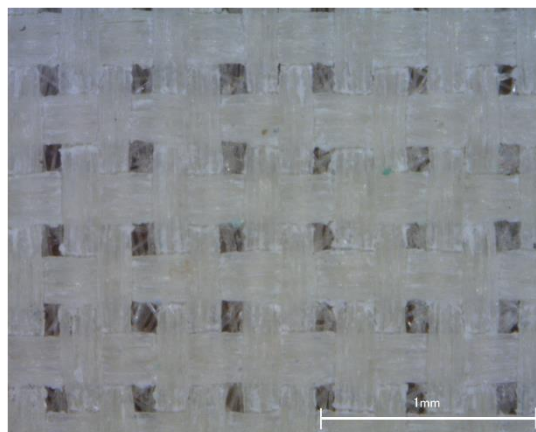


Fig. 95 顕微鏡写真 ②

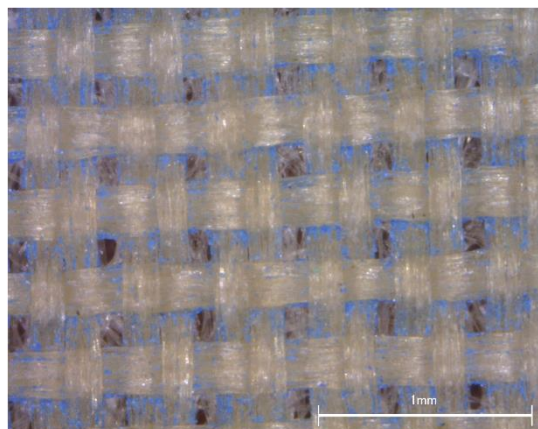


Fig. 96 顕微鏡写真 ③

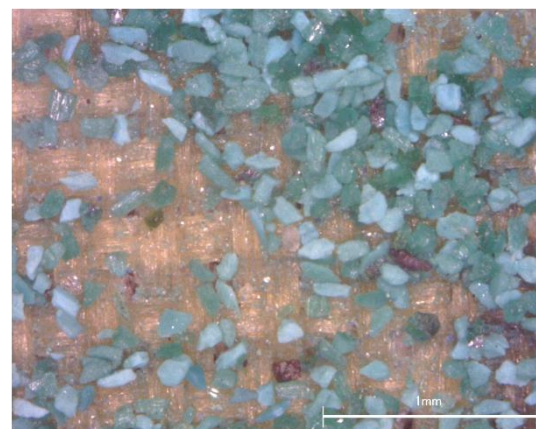


Fig. 97 顕微鏡写真 ④

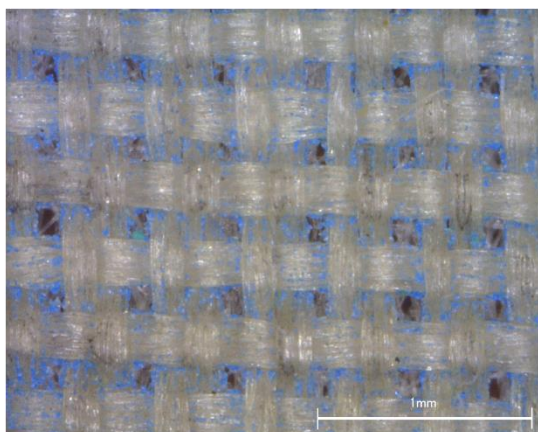


Fig. 98 顕微鏡写真 ⑤

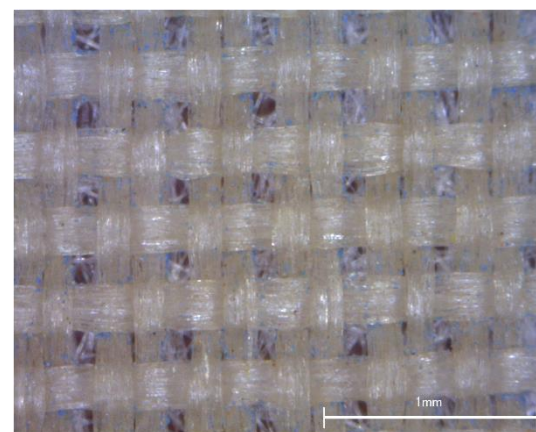


Fig. 99 顕微鏡写真 ⑥



Fig. 100 A-02「緑山木樵図」
顕微鏡写真位置図

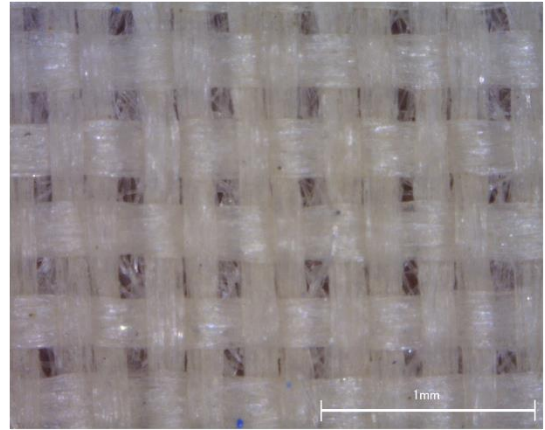


Fig. 101 顕微鏡写真 ①

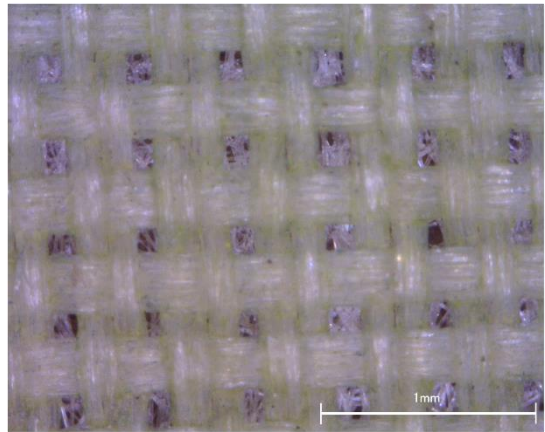


Fig. 102 顕微鏡写真 ②

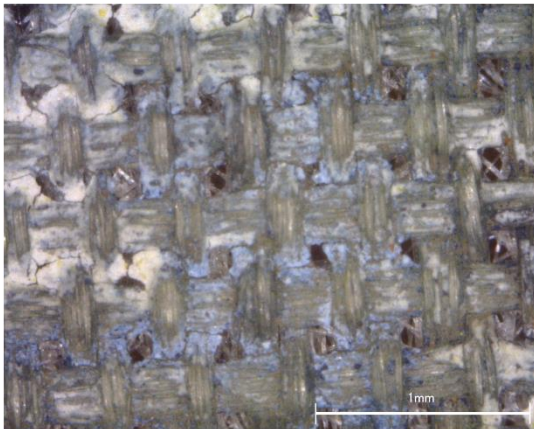


Fig. 103 顕微鏡写真 ③

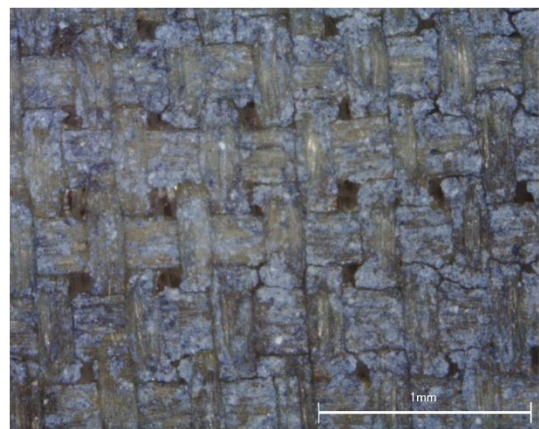


Fig. 104 顕微鏡写真 ④

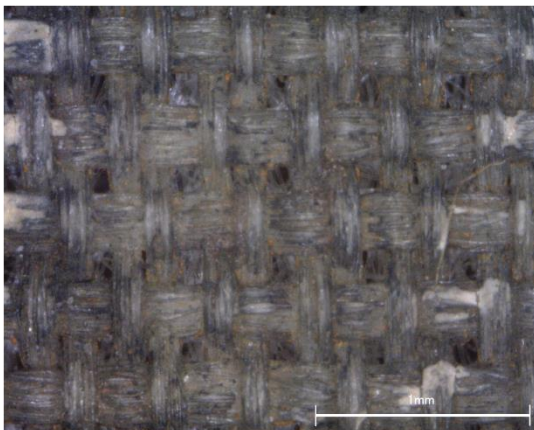


Fig. 105 顕微鏡写真 ⑤

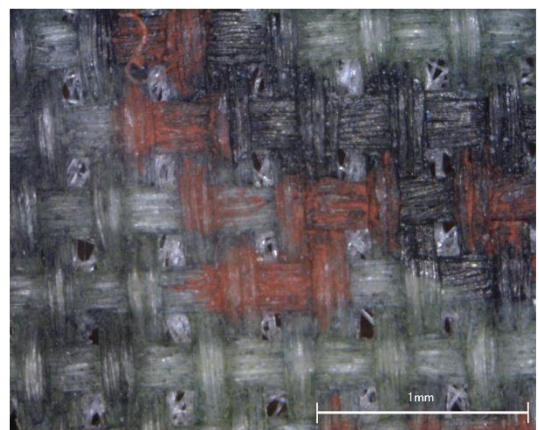


Fig. 106 顕微鏡写真 ⑥

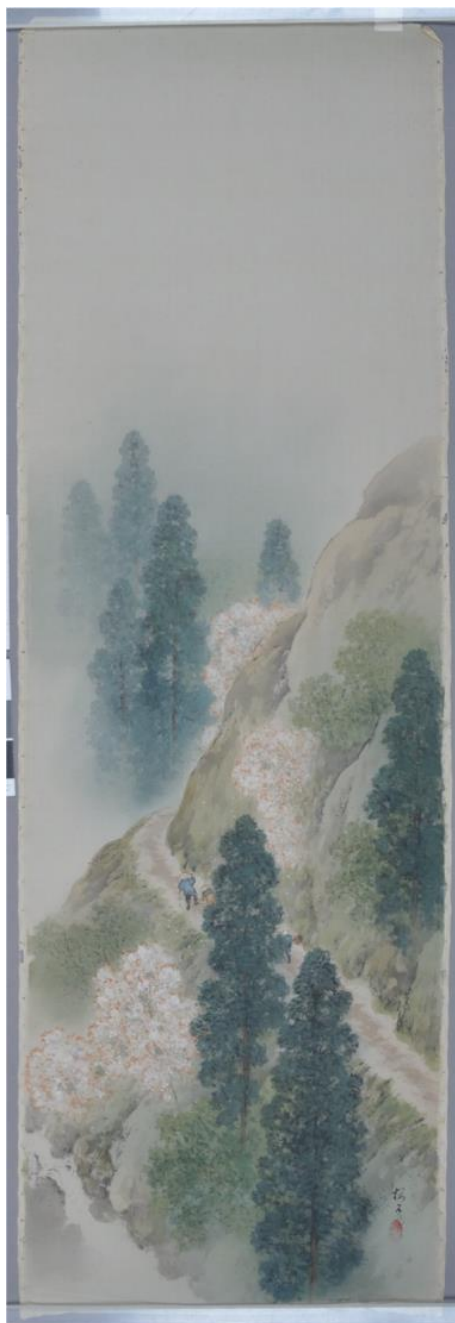


Fig. 107 修復前 25-08「春山行路図」
本紙料絹全図

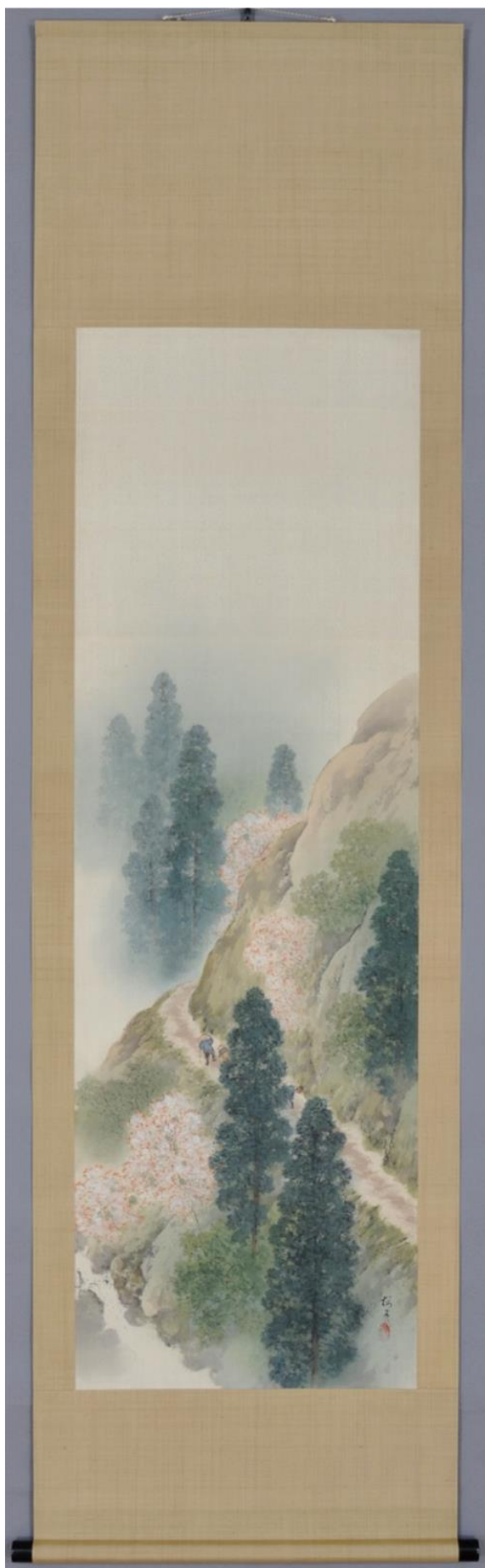


Fig. 108 修復後 25-08「春山行路図」
作品全図



Fig. 109 修復前 25-10「瀑布図」
本紙料絹全図



Fig. 110 修復後 25-10「瀑布図」
作品全図



Fig. 111 修復前 25-13「溪谷行旅図」
本紙料紙全図



Fig. 112 修復後 25-13「溪谷行旅図」
作品全図



Fig. 113 修復前 25-21 「春山図」
本紙料紙全図



Fig. 114 修復前 25-21 「春山図」
作品全図



Fig. 115 修復前 A-01「富嶽図」
本紙料絹全図



Fig. 116 修復前 A-01「富嶽図」
作品全図



Fig. 117 修復前 A-02「緑山木樵図」
本紙料絹全図



Fig. 118 修復後 A-02「緑山木樵図」
作品全図



Fig. 119 修復前 25-08「春山行路図」
本紙料絹全図 斜光線写真

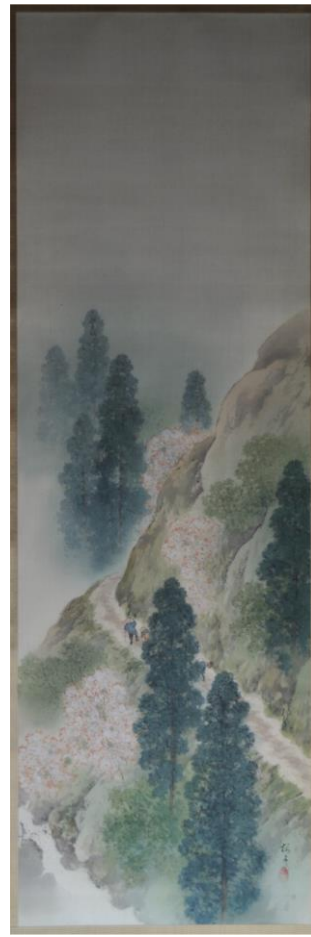


Fig. 120 修復後 25-08「春山行路図」
本紙全図 斜光線写真



Fig. 121 修復前 25-10「瀑布図」
本紙料絹全図 斜光線写真



Fig. 122 修復後 25-10「瀑布図」
本紙全図 斜光線写真



Fig. 123 修復前 25-13「溪谷行旅図」
本紙料紙全図 斜光線写真



Fig. 124 修復後 25-13「溪谷行旅図」
本紙全図 斜光線写真

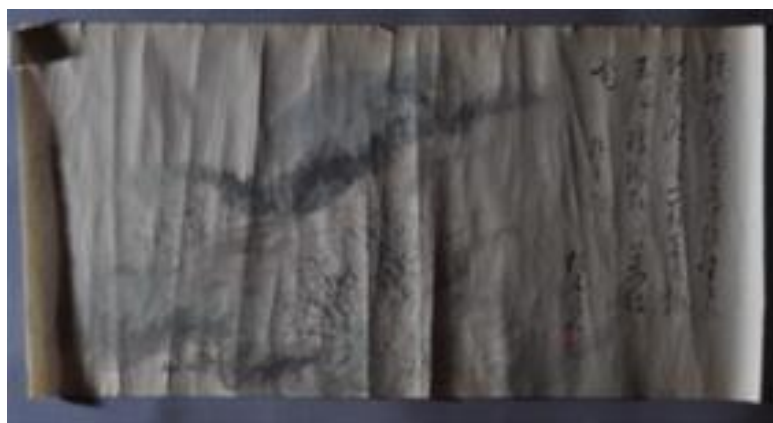


Fig. 125 修復前 25-21「春山図」 本紙料紙全図 写真線写真



Fig. 126 修復後 25-21「春山図」 本紙全図 写真線写真



Fig. 127 修復前 A-01「富嶽図」
本紙料絹全図 斜光線写真



Fig. 128 修復後 A-01「富嶽図」
本紙全図 斜光線写真



Fig. 129 修復前 A-02「緑山木樵図」
本紙料絹全図 斜光線写真



Fig. 130 修復後 A-02「緑山木樵図」
本紙全図 斜光線写真



Fig. 131 修復後 25-08「春山行路図」
新調した桐印籠箱



Fig. 132 修復後 25-08「春山行路図」
作品を桐印籠箱に納めた様子



Fig. 133 修復後 25-10「瀑布図」
新調した桐印籠箱



Fig. 134 修復後 25-10「瀑布図」
作品を桐印籠箱に納めた様子



Fig. 135 修復後 25-13「溪谷行旅図」
新調した桐印籠箱



Fig. 136 修復後 25-13「溪谷行旅図」
作品を桐印籠箱に納めた様子



Fig. 137 修復後 25-21「春山図」
新調した桐印籠箱



Fig. 138 修復後 25-21「春山図」
作品を桐印籠箱に納めた様子



Fig. 139 修復後 A-01「富嶽図」
新調した桐印籠箱



Fig. 140 修復後 A-01「富嶽図」
作品を桐印籠箱に納めた様子



Fig. 141 修復後 A-02「緑山木樵図」
新調した桐印籠箱



Fig. 142 修復後 A-02「緑山木樵図」
作品を桐印籠箱に納めた様子